

宮崎市出身の瑛九（本名：杉田秀夫）が、画家を目指して上京し、日本美術学校に入学したのは14歳の時です。学校は中退してしまいましたが、描くことは続けました。画集や展覧会を見ては国内や海外の作家の作品を研究し、時には評論を書くこともありました。初期の頃は、刺激を受けた作品に似た画風の絵を描いていましたが、独自の表現を求めて徐々に描き方が変化します。また、油彩だけではなくフォト・デッサンや版画など、様々な技法に挑戦し、時には共通の図柄や型紙などを使用することもありました。

ここでは、最初期の油彩「秋の日曜日」から、瑛九と名乗り始めたフォト・デッサン集『眠りの理由』や、絶筆の大作「つばさ」に至るまで、瑛九が挑み続けた画業について作品とともに振り返ります。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	瑛九	1911～1960	秋の日曜日	1925(大正14)	23.7×32.9	油彩
2	瑛九	1911～1960	3人	1935(昭和10)頃	21.4×15.2	素描
3	瑛九	1911～1960	フォト・デッサン集『眠りの理由』より	1936(昭和11)	21.6×26.6	フォト・デッサン
4	瑛九	1911～1960	作品A	1936(昭和11)	30.0×24.8	フォト・デッサン
5	瑛九	1911～1960	作品B	1936(昭和11)	28.4×23.0	フォト・デッサン
6	瑛九	1911～1960	題不明	1937(昭和12)	23.7×16.7	フォト・コラージュ
7	瑛九	1911～1960	作品-F	1936(昭和11)	45.7×53.3	油彩
8	瑛九	1911～1960	誕生	1940(昭和15)	45.5×53.1	油彩
9	瑛九	1911～1960	宮崎郊外	1943(昭和18)	72.5×90.8	油彩
10	瑛九	1911～1960	コップを持つ男	1943(昭和18)	45.8×38.3	油彩
11	瑛九	1911～1960	読書	1948(昭和23)	45.3×37.8	油彩
12	瑛九	1911～1960	花と家	1951(昭和26)	23.5×44.6	油彩
13	瑛九	1911～1960	時計の顔	1954(昭和29)	33.0×23.9	油彩
14	瑛九	1911～1960	鳥	1956(昭和31)	52.9×45.4	油彩
15	瑛九	1911～1960	森の中	1957(昭和32)	44.3×51.7	エアブラシ
16	瑛九	1911～1960	まつり	1958(昭和33)	90.8×106.4	油彩
17	瑛九	1911～1960	つばさ	1959(昭和34)	259.0×181.8	油彩
18	瑛九	1911～1960	海辺の夢	1950(昭和25)	45.0×54.8	フォト・デッサン
19	瑛九	1911～1960	巣	1956(昭和31)	37.8×25.5	リトグラフ
20	瑛九	1911～1960	不思議な期待	1954(昭和29)	39.4×27.4	フォト・デッサン
21	瑛九	1911～1960	自然	1954(昭和29)	23.3×18.2	エッチング
22	瑛九	1911～1960	ひまわり	1955(昭和30)	23.4×18.2	エッチング
23	瑛九	1911～1960	家と二人	1956(昭和31)	27.5×19.9	素描
24	瑛九	1911～1960	白サギ	1956(昭和31)	23.7×18.2	エッチング

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
25	瑛九	1911～1960	あつまり	1956(昭和31)	50.8×37.0	リトグラフ
26	瑛九	1911～1960	旅人	1957(昭和32)	37.9×52.4	リトグラフ
27	瑛九	1911～1960	線のデッサン	1958(昭和33)	25.5×20.6	水彩
28	瑛九	1911～1960	花火	1958(昭和33)	25.0×17.5	水彩
29	瑛九	1911～1960	題不明	1959(昭和34)	33.1×24.5	素描